



# 『認知症カフェによって生まれた 地域との繋がり』

社会福祉法人 室蘭福祉事業協会  
デイサービスセンターかがやき

佐々木 雅章

(社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員)

# 『認知症カフェによって生まれた地域との繋がり』

開設から18年が経過し、その過程において地域との繋がりには希薄。地域包括ケアシステムを構築していく上で地理的にも重要な拠点として社会的要請が年々求められる中、地域との“繋がり方”を模索していました。

平成28年4月、国が推進する地域包括ケアシステムの取り組みに向け、室蘭市からの委託事業として認知症カフェ(かがやきカフェ)を開設。現在2年が経過し地域とどういった“繋がり”ができたのかを検証しました。

室蘭市の人口に占める高齢化  
の割合（高齢化率）は

36.7%

およそ3人に一人は高齢者





## かがやき周辺の状況 赤いエリア

世帯数： 1426世帯

人口 : 2277人

高齢化率： 43.33%

# この地域の特色

- ・市営住宅が14棟～単身高齢者が多い  
(市営住宅の老朽化が進んでいる S50年代～)
- ・バス・JRなど交通の便が良い
- ・郵便局、銀行などが近く、生活の便も良い
- ・大型スーパー複数、コンビニが近い
- ・地形がフラットで住みやすい

平成28年4月開設

認知症カフェ(かがやきカフェ)

営業日:毎月第2・4金曜日

時間 : 11:00 ~ 15:30

費用 : 100円(飲み物お代わり自由)

※イベント開催日は偶数月の第2金曜日



# 開設当初の考え

☆ 認知症を患う方・その家族の相談窓口になれば・・・。



相談の為に来所する方はいない(・\_・;)



# 何故相談に来ないのだろうか？



➡ 困っていて相談したいと思う方は、  
カフェに来なくても、すでに行政や  
包括に足を運ぶか、民生委員等を  
通じて介入が始まっている。



## では、かがやきカフェって何だろうか？

# 自己覚知に集中！



- ① かがやきカフェって『相談窓口』のみの機能で、ただただ困った地域の方が来所されるのを待っているだけでいいのか？
- ② 客観的に見て困っている若しくは衛生上や近隣との関係性を考え、支援が必要だが、**本人は困っていないと思っている**人へのアプローチはできているのか？
- ③ 困っていると思っけていても他人に相談することが恥ずかしい・・・『認知症』という病気を知られたくない・・・介護は家族の使命・・・と考えている人への支援はできているのか？

# 地域の協力なしでは問題は解決されない

- ☆ かがやきカフェの活動を展開していく上で地域との関係性作りは必須なこと。ただただ待っているだけの事業所では誰からも信用されない。自ら地域に出て行動を起こしていかなければならない。

平成29年4月に『町会』加入。

(ががやきカフェ開設から1年後)

～ 総会や役員会等の出席

夏祭りの参加(準備・当日・後片付け)

夏祭りの反省会(飲み会)

町会春・秋の清掃

## 平成29年4月～カフェ『イベント』内容の見直し

- ① 認知症サポーター養成講座開催回数の増加、昼・夜の部開催、事業所向けも新たに追加、学校に出向いての認知症キッズサポーター養成講座の開催
- ② 事業所周辺地区(2町会)でのカフェ主催の徘徊搜索模擬訓練の実施
- ③ 臨床心理士を招いての回想法の講話
- ④ 室蘭を語るイベント(現在と昔の風景スライドを見ながらMCとセッション)etc・・・

# かがやきカフェイベントの様子



認知症サポーター養成講座  
(事業所向け・夜の部)



認知症キッズサポーター養成講座



警察講話(高齢者詐欺等)



消防講話(災害等)



## 臨床心理士による回想法







## 徘徊搜索模擬訓練①

### × 授業準備の力

- ・ 授業準備の力ではなく、準備力
- ・ 30分 - 50分 - 1時間程度
- ・ リーダーの役割が大きい
- ・ 地域住民への説明が重要
- ・ 計画の進捗へのフォローが重要
- ・ 計画の進捗へのフォローが重要
- ・ 計画の進捗へのフォローが重要
- ・ 計画の進捗へのフォローが重要

### × 詳細な説明の力

- ・ 声の掛け合いが重要
- ・ 連絡の取り合いが重要
- ・ 連絡の取り合いが重要
- ・ 連絡の取り合いが重要

### × サポートの力

- ・ 地域住民への説明が重要
- ・ 一般市民へのPRが重要

### × 声の力

- ・ 強い声掛けが重要
- ・ 地域住民への説明が重要

### 搜索班の方

・幹線道路のみではなく脇道も

・細い道路へ入ると探しにくい

・リーダーの判断が良かった

・地域住民の協力が重要

・何気ない会話からスタートし声掛けした

・徒歩での搜索は大変

・脇道での搜索は大変

・地域住民の協力があると効率化図れる

・徘徊者へ大声で声掛けすると驚かれる懸念ある

### 徘徊高齢者役の方

・声を掛けられると驚く

・連絡体制を構築すると早期発見できるのではないか

・実際に歩いてみると分かりにくい場所もあった

### サポーター役の方

・地域住民の協力が大きい

・一般市民へもPRすることができた

その他

・優しい声掛けが重要

・地域住民熱意を感じた

## 活動を通して地域住民にどのような変化が生まれたか？

- ・町会から認知症サポーター養成講座の開催依頼がきた(H30年度)

⇒ **自発的**に認知症という病気の知識を得て、町会運営に役立てたいという思いがあるとのこと。

・かがやきへの来所者が増えた！

～ トイレを貸して欲しい方・電話を貸して欲しい方・体調が悪くて休ませて欲しい方・道を尋ねる方・ここに通いたいと直接くる方  
etc・・・。

⇒ 多岐に渡るイベント広報や顔の見える関係性作りを行ってきたことで、閉鎖的なイメージが解消され、『入りやすい』、『話しやすい』、『相談しやすい』等の開放的なイメージが構築され、地域との『繋がり』が出来始めた！

## 活動を行ったことで事業所にどのようなことが起きたのか？

- ① 利用者実人員のup
- ② 他事業所多職種と協働し困難ケースの相談・介入の連携強化
- ③ 町会役員会等で、「最近〇〇さん何か同じ話しばかりするのよね」、「最近奥さんだけで、夫婦で出掛けるの見かけなくなったよね～」等、介入が必要になりそうなケースの情報を得やすくなった。



包括圏域よりさらにマクロな視点での福祉拠点（包括サテライト?）として包括と密に連携を図れるようになった！

## 今後の課題と展望

課題:

・事業所周辺の狭い範囲に約1000人近くの65歳以上の高齢者が居住。昭和50年代の老朽化した市営APに独居・認知症を患う高齢者が多く居住している現状。昨年でも認知症高齢者の行方不明事案が数件、孤独死も同様にあった。前年度この地域において徘徊搜索模擬訓練を実施したが、**搜索班の搜索範囲の明確化・2町会を跨ぐ連絡体制に不備がある現状。**



**徘徊者緊急搜索フォーマットの作成！**



## 展望：

・現状37%近い高齢化率は年々高上りすることは明白であり、支える世代が少なくなるということ。そこで『若年層』へ認知症という病気の理解、対応方法の知識享受が重要と考える。若いうちからこのような病気の特性を知ることによって将来福祉職に興味を持つ子も少なくはないと思われる。具体的な取り組みとして、『認知症キッズサポーター養成講座』の普及を図っていききたい！



地域全体でこの街を作ってきた先人達のサポートをする！

The background features a light blue sky with soft, wavy horizontal bands of varying shades of blue. At the bottom, there are rolling green hills in various shades of green, creating a peaceful, natural landscape.

ご清聴ありがとうございました。